

令和4年度（2022年度） 第2回 八王子市社会福祉審議会地域福祉専門分科会	
日時・会場	令和4年（2022年）7月21日（木）14：00～16：00 801会議室
出席者	委員 和田清美（東京都立大学） 田中利男（八王子市民生委員児童委員協議会） 小室崇司（八王子市町会自治会連合会） 榊原英資（市民委員） 齋藤健（八王子市民活動協議会） 豊田聡（八王子市社会福祉協議会）
	市職員 松岡福祉部長 山岸生活福祉担当部長 富岡高齢者福祉課長 吉本高齢者いきいき課長 浅岡生活自立支援課長 内田生活福祉総務課長 加藤生活福祉地区第一課長 小林生活福祉地区第二課長 加藤障害者福祉課主査(代理) 松本子どものしあわせ課長
	説明員 伊藤福祉政策課主査
欠席委員	黒岩亮子（日本女子大学） 西村陽子（市民委員） 山下晋矢（八王子市医師会）
次第	1. 開 会 2. 議 題 (1)八王子市社会福祉審議会地域福祉専門分科会における副会長の選任について (2)第3期八王子市地域福祉計画に関する施策の効果測定及び次期計画改定に向けた意識調査について 3. 事務局より報告 (1)第3期八王子市地域福祉計画・令和3年度(2021年度)実績報告 (2)その他 4. 閉 会
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
資料	・ 次第 【資料1-1】 第3期八王子市地域福祉計画に関する施策の効果測定及び次期計画改定に向けた意識調査 調査概要 【資料1-2】 第3期八王子市地域福祉計画に関する施策の効果測定及び次期計画改定に向けた意識調査 調査項目(案) 概要版 【資料1-3】 第3期八王子市地域福祉計画に関する施策の効果測定及び次期計画改定に向けた意識調査 調査項目(案) 詳細版 【資料2-1】 第3期八王子市地域福祉計画・令和3年度(2021年度)実績報告 総評 【資料2-2】 第3期八王子市地域福祉計画・令和3年度(2021年度)実績報告

会議の要旨	
	<p>1. 開 会</p> <p>2. 議 題</p> <p>(1) 八王子市社会福祉審議会地域福祉専門分科会における副会長の選任について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八王子市社会福祉条例第6条第5項に基づき、和田会長から田中委員を副会長に指名した。 <p>(2) 第3期八王子市地域福祉計画に関する施策の効果測定及び次期計画改定に向けた意識調査について</p> <p>【資料1-1】第3期八王子市地域福祉計画に関する施策の効果測定及び次期計画改定に向けた意識調査 調査概要</p> <p>【資料1-2】第3期八王子市地域福祉計画に関する施策の効果測定及び次期計画改定に向けた意識調査 調査項目(案)概要版</p> <p>【資料1-3】第3期八王子市地域福祉計画に関する施策の効果測定及び次期計画改定に向けた意識調査 調査項目(案)詳細版 について事務局より説明。</p>
和田会長	<p>ありがとうございました。ご質問があればぜひお出しただければと思います。よろしく願います。</p> <p>施策の効果測定及び次期計画改定に向けた意識調査となっていますから、効果測定に関する質問というのは、資料の設問でいくと第三期計画について指摘があるものがここでは該当するというところでよろしいですか。</p>
伊藤主査	<p>アンケート項目ですけれども、三期計画の中間年にあたる令和2年度にもアンケートを実施しています。そのときの調査項目をベースに設定したものになります。【資料1-2】の最後に、資料右側の欄に「新規項目」の丸がついています、「次期計画に向けた新規項目」という4つの設問は令和2年度の調査項目にはなかった項目になります。効果測定に関する設問については「設問設置理由」のところに記載があるもの、例えば11番や「地域への参加」の項目にある14番から16番が目標値の把握に直接つながるものにあたります。</p>
和田会長	<p>今回の調査で新規に加わったのが最後の4つの設問ということですね。その他いかがでしょうか。</p>
田中委員	<p>表の中の「地域での暮らし」の10番、近所で高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になった世帯があった場合、あなたは誰に相談していますかというところですね。普通、事故とか怪我であれば119番、トラブルで起きたら警察、病気だったら自分の好きな病院に行ってしまうのではなかろうかと思えます。ですから、相談そのものというのが何の目的だったのかよく分からない。どこに相談に行ったらよいか分からないから、とりあえず何かあったら八王子まるごとサポートセンターに行けば、相談先が分かるということで、そうするとこの設問はどうなのだろうと思います。</p>
和田会長	<p>それぞれケースによって消防、警察、はちまるに相談すればいいのかな、と私は思っています。</p> <p>質問の意図は「相談するのはどこですか」という実態を把握したいということですね。相談については、21番生活にお困りの方への相談窓口、23番</p>

伊藤主査	<p>にはちまるサポートがありますよね。</p> <p>三期の計画の目的としては、地域の方が取り残されない、地域で助け合っていく社会を作っていくという部分がありますので、緊急的なものというよりは困り事があった際に地域でどういった場所に相談をしているか、という実態把握をするために設置した設問になります。</p>
田中委員 和田会長 小室委員	<p>項目の表現の仕方については再検討したいと思います。</p> <p>相談先が分からないという選択を入れた方が良いと思います。</p> <p>それが実態かもしれませんね。他にいかがでしょう。</p>
齋藤委員	<p>私は、この1年ぐらいで町内だとか地域で起こっている問題で、この質問がどのようにデータとして出てくるのかというのは非常に気になることです。相談先に関する問題というのは、増えてきていることなので時系列的に私も見てみたいと思っています。</p> <p>例えば、8050 問題だけではなくそれがごみ問題や生活困窮につながっている場合などがあります。ここにも複合化とありますけれども、本当に困っている問題です。</p> <p>ごみ問題だけで隣近所の人が右往左往して、民生委員に來たり、町会長のところに来たりします。それで、実際にいってみると生活保護は受けているけれども、親が入院してしまってメンタル的にも支えがなくなって、アルコール依存になり、ごみ問題につながったというケースがあります。近所の人からどこに相談したらよいのかと受けたことがあります。そのときは社協さんに教えてもらいながら、市の担当部署に相談し民生委員さんと一緒に手を尽くしましたがけれども、複雑化しているのでかなり皆さん迷っている。すぐにはちまるサポートとなっていないのが地域の実態です。</p>
和田会長	<p>この設問は公的なものを中心に考えていくものだと思っていたのですが、この中に家族や知人とかここに市民活動団体が入ってもよいのかなと思います。というのも本当に困ったときお互いに助け合う市民活動団体がありますので、回答の14番に入ってくるのかなと思っていました。直していただくのであれば NPO 等の市民活動団体というのは入ってもおかしくないのかなと思います。</p>
伊藤主査 和田会長	<p>ありがとうございます。この質問については中間のアンケートにはっておりますよね。</p> <p>はい、ただ今後のアンケートで回答項目を追加することは可能です。</p> <p>今おっしゃられたご要望についてはお答えできるということですのでよろしいですか。</p>
伊藤主査 豊田委員	<p>はい。</p> <p>「あなたは誰に相談していますか」という聞き方なのですけれども、「していますか」だとやったことがあるかどうかも考慮しなくてはいけなくて、「しますか」という聞き方が良いかと。「していない」となるとここでの回答がなくなってしまいますので。</p>
和田会長	<p>そうすると、選択肢が「15. 誰もいない」、「16. 誰にも相談したくない」という回答項目になっているのですが、「15. 誰もいない」というよりは「わからない」とかが良いのではないかなと思います。</p> <p>「16. 誰にも相談したくない」というのも、ちょっと今いいのが出てこないですけど検討したほうがよいかもかもしれませんね。</p>
伊藤主査 和田会長	<p>少し補足させていただくと、令和2年度のアンケートの回答結果では一番多かったのは、家族、続いて友人・知人が多くなっております。</p> <p>この設問については、当てはまるものすべて、複数回答ということでしょうか。</p>
伊藤主査	<p>はい。</p>

小室委員	<p>親戚も知らない、そこだけが事件として異常になっている状況で周りはどうするかということが今後増えていきますよね。それで、親戚なんかをやっと探してそこから一緒に病院に行って 親戚、知人がいればいいですけどそれから先が問題なケースも増えていきます。</p>
和田会長 小室委員	<p>そういう情報を持っていればいいですけど そうなんですよね。そこを調べることから始まる。民生委員さんが知って</p>
和田会長 榑原委員	<p>いればいいのですが、そうじゃないときは一緒になって対応します。400世帯に対してそれぞれ、おおよそ民生委員が1人、町会の役員が20人、育成会の役員が20人、シルバーの役員が15人で動いている感じですね。ひとりではなかなか見られないです。</p>
和田会長 榑原委員	<p>他、いかがでしょうか。 設問の9番と10番の悩みや不安がある時に誰に相談していますか、のところですが、9番だといわゆる家庭のこととか割と個人のことなのかなと思います。10番になるとそうではなくて、隣の家がとかあそこのおばあちゃんがおじいちゃんがといった地域の課題を指しているのか、ちょっとわかりにくいというのが今皆さんの意見を聞いていて思ったところです。あと、9番に関してはほぼご家族がいらっしゃればそうだし、親戚、知人や知人もそうかなと思います。</p>
和田会長 伊藤主査	<p>9番と10番を分けた理由もそうですし、どのレベルで聞きたいのか、効果測定をしていきたいのか、これだとちょっとぼやっとしてしまうと思います。 あと、10番は近所で高齢や病気、事故などでいうところは今だと、ケアマネジャーさんがいれば入ってくるのかなと感じました。以上です。</p>
和田会長 伊藤主査	<p>今のご意見についてはいかがでしょうか。 9番はやはりご自身に困り事があった場合、どういったところを頼りにしているかというのを把握するため今回入れさせていただいた項目になります。10番については、ご自身の直接的な困り事ではないですけども、ご自身が住んでいらっしゃる身近な地域で困り事があったときどのようなところに相談していますか、ということになります。確かに違いはあるのですが、ご指摘のとおり設問については検討する必要があるのかと感じています。</p>
榑原委員	<p>10番なんかですと、言い方は酷いかもしれませんが「興味がない」ということも実はあるのではないかと思います。あとは見て見ぬふりをせざるを得ないとか、どうしたらいいのかわからないというのがあって、はちまるサポートだと民生委員だとか社協だとか、そこからつながっていくのか、認知されていくのかだと思います。先ほど小室委員からもお話がありましたけれども、探すことから始まりやっとならなかなと。これだとみんな地域に興味がある、市民全員が困り事に興味があるという前提に作られている印象があり、実態とは離れてしまうのではないかという印象があります。</p>
伊藤主査	<p>近所で何かあったとき、どれだけ気軽に相談できるかというのがポイントだと思いますので、ご自身に何かあったときと近所で何かあったときで回答の項目同じにするのではなくて、自身の周りのことでしたら相談自体を躊躇してしまうようなこともありますので、そういった部分も拾えるような回答項目を考えたいと思います。</p>
豊田委員	<p>番号変わりました、【資料1-3】の16番の「あなたは、次に挙げるような福祉にかかわる制度や言葉の中で、どれを知っていますか。」のところなのですが、回答の最初に「八王子まるごとサポートセンター」があって新規の設問の23番「相談窓口として八王子まるごとサポートセンターを設置していますが、ご存じでしたか。」と設問自体が似ている。</p>

伊藤主査	<p>あとは16番の設問自体が制度や施設など一緒くたになってしまっている。施設は施設でまとめるとか、制度だったら制度で絞った方が良さそうな気がします。また、新しい設問との兼ね合いも考えた方が良さのではないかと思います。</p> <p>23番については「相談窓口として」という文言を入れることで八王子まるごとサポートセンターを相談施設だと認識してほしい意図があります。</p> <p>制度と施設を分けた方が良さというご指摘についてはそのとおりだと思いますので、検討したいと思います。</p>
豊田委員	<p>それから、26番「あなたの生活の中で、あてはまるものはありますか。」についてですが、重層的支援体制整備事業を意識したものだと思うのですが、回答項目の「2. 6か月以上、買い物以外で外に出かけていない。」はひきこもりについてですよね。「3. 2人以上の家族の介護や育児をしている。」がダブルケアということだと思います。</p>
伊藤主査 豊田委員	<p>6番だけちょっとわからないので教えていただければよろしいですか。こちらが高齢者の移動支援というものと対応しています。</p> <p>見ていると、ここだけ異質というか、ほかの選択肢が複合的なものであるけれども、外出が難しいというのは複合ではないですよね。8050であったり、ダブルケアであったり、生活困窮であったりという中で、1から7の選択肢で6番だけ異質なので、もし入れるのであれば6番を7番にしたほうが良いかと思います。</p>
伊藤主査 豊田委員	<p>26番については次期計画に向けて、どのような生活課題を抱えているか把握したいと考え入れた項目になります。移動支援につきましてはどのようにするか事務局で検討していきたいと思います。</p>
伊藤主査	<p>16番には高齢者あんしん相談センターが入っていませんが、ここには入ってこないのでしょうか。</p>
伊藤主査 田中委員	<p>市の重要な施設となりますので、入れる方向で考えたいと思います。ほか、いかがでしょうか。</p>
伊藤主査 和田会長 齋藤委員	<p>20番ですけれども、設問の「3. 行政の手の届きにくい課題については、住民が協力していくべきである」について何を期待して入れているのかわからない感じがします。選択肢の1、2はわかるのですが、複数回答でもないですしちょっとどうなのかと思います。</p>
伊藤主査	<p>20番については地域で支えあう社会について、理想を選択肢の1番として下に行くほどそこから離れていくという形になります。3番でどういったことを把握したいかといいますと、地域福祉は行政が担えばよいという考えの方の数を把握したい、地域で取り組んでいくという気持ちが少し離れている方を把握したいというのが3番の選択肢になります。これを1、2の考えに近づけていくために、地域福祉計画の中でどういったことを具体的に組み込んでいけばよいか考えていくための項目となっております。</p>
松岡部長	<p>行政の手の届きにくい課題、というのは回答者の方がイメージしづらいかと思いますので、その部分については表現を変えさせていただいて、より分かりやすく回答しやすいような形にしたいと思います。いただいたご意見踏まえまして、ここは整理をさせていただきます。</p>
和田会長	<p>自分がどれに丸を付けるのかと考えたとき、この4つの選択肢というのは、小室委員どうでしょうか。</p>
小室委員	<p>そうですね、ちょっと難しいですね。3番の意味が分からないように見えますね。</p>
和田会長	<p>これはどこか別の調査の同じような質問から取ってきた設問になりますか。</p>

伊藤主査	こちらは、平成18年からアンケートを行っているのですが経年で取っている調査項目になります。
和田会長	選択肢も同じなのですね。
伊藤主査	そうです。ただ、回答する方が、地域の方で助け合って地域の力を高めていく、という意図が分かっていたりするような表現にする必要があると指摘いただいた中で思いました。
和田会長	そうですね、この設問についてはご検討ください。ほか、いかがでしょうか。
榑原委員	26番についてですが「3. 2人以上の家族の介護や育児をしている。」についてですが、どうして「2人」なのでしょう、1人でも大変だと思うのですが。
伊藤主査	ここでは、ダブルケアとして把握したいためこのような形にしています。
小室委員	ただ「介護や育児」となると、二人以上の育児をしている世帯というのはたくさんあると思うのですが、それも対象になるのかと思います。「ダブルケア」でということであれば、「介護も育児も」行っているとかそういう表現になるかと思います。
伊藤主査	あとは3番の選択肢を見たときにいわゆるヤングケアラーのことを聞こうと思っているのかな、と思ったりはしました。
伊藤主査	ダブルケアについて把握したい項目になりますので、それが拾えるような表現に修正したいと思います。
和田会長	もう少し補えばよいかと思います。 行政側にとっては重要な課題なので聞きたいとは思いますが、市民の方が読んでみてよくわからないな、というのは良くないですね。
伊藤主査	はい、もう少し補って対応したいと思います。
和田会長	それでは、この後さらに気づいた点があれば意見は受け付けますよね。
伊藤主査	はい。この場以外でもお気づきの点があれば事務局にご意見いただければと思います。
和田会長	スケジュールでいきますと8月下旬から9月の下旬で素案が決定される。それを委員の皆さんにお送りして意見を吸い上げる。そして最終決定に入ると。それでよろしいですか。
伊藤主査	はい。そうです。
和田会長	ということですので、ぜひご協力をお願いいただければと思います。
	では、次は事務局より報告となっております。
	3. 事務局より報告 (1) 第3期八王子市地域福祉計画・令和3年度(2021年度)実績報告 【資料2-1】第3期八王子市地域福祉計画・令和3年度(2021年度)実績報告 総評 【資料2-2】第3期八王子市地域福祉計画・令和3年度(2021年度)実績報告 について事務局より説明
和田会長	では、今の報告を受けてご意見等はいかがでしょう。
田中委員	【資料2-2】の2ページの「近隣に高齢・病気などで困っている世帯があった場合に、民生委員・児童委員に相談する人の割合」というのはどのように把握したのでしょうか。
伊藤主査	こちらは先ほどご意見いただきました意識調査の中で把握したものです。

田中委員	資料の設問だと10番にあたります。ここで民生委員とお答えいただいた方のパーセンテージになります。
和田会長	僕自身が病気だとかで相談されたことよりも、発見することの方が多い。意外と自分が病気や怪我していることが分からないのですよね。まして、最近だとコロナで人との接触を避けていることもあるので、頻りに訪問はするのだけでも、重病になっているということもある。自分から相談してくるということがなかったので、どうやって調べているのか気になっていました。
伊藤主査 和田会長	今のようなご質問がでるといことは、根拠を明示したほうがよろしいのではないのでしょうか。あと、表だと「内容」と記載がある部分が目標値になるということでしょうか。
伊藤主査 和田会長	はい、そうです。 ここは、内容ではなく、目標値と記載するべきではないのでしょうか。そして、先ほどおっしゃっていただいたように調査結果がここでの7.2%ということですよ。そして、平成28年度の調査時7.1パーセントから令和2年度のアンケートの結果で7.2パーセントなので、増えたということですか。
伊藤主査 和田会長	はい。 ですので、根拠となるものを入れた方がいいですね。目標値にしても、調査結果というのを入れる。
伊藤主査 和田会長	それから、少し気になったところですが、資料の【2-1】事業実績の「令和3年度(2021年度)における事業実績の傾向」の「傾向」という文言はいらぬのではないのでしょうか。あと、ご説明が総評の資料より詳しくだったので、もうちょっと総評に入れてもいいのかなと思いました。1枚にまとめていただいたのかもしれませんが、もう少し分量が多くなって良いと思います。総評だからこのようにまとめたということですか。
伊藤主査 和田会長	見やすさの面でコンパクトにまとめています。 実績があって、ご説明の中でその実績に対する今年度からの方向性を説明の中で話されていました。そのことは留意点と重なるのかなと思って聞いていましたが、そうではないのですね。
伊藤主査 和田会長	はい。 事業実績の書き方は三つの大きな課題に対する実績とそこから浮かびあがってくる課題ではないのでしょうか。
伊藤主査	毎年の報告になりますので、今後の実績報告についてはいただいたご意見を反映させたいと思います。
和田会長 榊原委員	他にはいかがでしょうか。 【資料2-2】の「3 福祉サービスの充実」が、生活困窮者を全面に押し出していますが、その他の福祉サービスはどうなんでしょうか。
伊藤主査	令和3年度の特徴的なものとして記載しました。 福祉サービスについては生活困窮だけではなく、高齢、障害、児童福祉で取り組んでおります。その点については総評には記載していませんが、【資料2-2】の各事業報告では評価や改善について記載しております。
和田会長	ちょっと補えばよろしいのではないのでしょうか。「新型コロナウイルス感染症の影響もあり、「とりわけ」生活困窮者の…」にするとか、そうすると特に多かったと分かりますし。
榊原委員	あと、同じ個所で「就労決定者数は前年度と比較し約1割回復した。」とありますけれど、相談件数が増えているので、就労決定者数は当然増えると思ってしまう。実績として挙げるのであれば、回復というのはちょっと違和感があります。相談者数とともに、決定者数も増えたで良いのかなと思います。

伊藤主査	前年度と比較して件数が増えたのが伝えたかったポイントになりますので、表現は改めます。
和田会長	ほか、いかがでしょうか。
小室委員	細かい点になりますが、先ほどもお話ありましたが、例えば 2 ページの表「内容」のところにるのが実績ではなくて「目標値」ですよ。そして、調査結果とあるところに実績が入っている。例えば 11 ページですけれど、「内容」の平成 28 年度が 50.2%となっている。そして、令和 2 年目標値は上げられた。けれども、実績は下がってしまったと。そこを分かるようにするため、表の中で性格が違うことを意識して説明しないとよろしくないかと思います。
伊藤主査	表の作りについてはわかりにくくなっていると思います。申し訳ございません。
小室委員	全体的な作り方の話になりますけれども、PDCA の最後のアクション。これが一番大切だと思います。具体性を持ったアクションがないとこれまでの分析が良かったとしても次につながらない。言ってしまえばアクションがすべてだと思いますけれども、資料のアクションのところを見るとちょっと少ないですよ。もうちょっと具体性があると良いのではないかと思います。例えば 27 ページ「地域における災害時支援体制は、町会・自治会、自主防災組織への働きかけが重要である。」とありますけれども、もうちょっと詳細にしてもらって。例えば、年度初めには市役所が主催で新任の町会長、理事に対して制度や取り組み、助成金などの勉強会を開いていただいているんです。そのような取り組みを具体的に記載すると良いと思います。そうすると、やるべきことがはっきりする、そうでないとアクションの記載が少なくなってしまうという意見です。
伊藤主査	はい、もう少し具体的に取り組むことを表現したいと思います。改善というところは次期計画にもつながるところですので、具体的にどういった改善策をそれぞれの取り組みを行って、次期計画につなげていか整理したいと思います。
和田会長	そうすると数値の面もそうですが、全体を見直していただく必要があると思います。
豊田委員	【資料 2-2】の 4 ページ「包括的な地域福祉ネットワーク会議」の改善のところですが、一点確認したいのですが「政策提案まで見据えた場として引き続き関連所管との連携強化を図っていく。」とありますが、ネットワーク会議は政策提案も目的としているという認識でよろしいですか。
伊藤主査	はい。ネットワーク会議の場で、次年度に具体的な施策ができるのではないかとこのものがあれば、事業実施につなげることを見据えた場になります。
豊田委員	わかりました。「自己評価」のところで「ひきこもり支援部会の開催状況の報告」とありますけれども、それにつながる「改善」がないのでひきこもりについては謳っておいてもよいのかなと思います。
和田会長	では、いろいろご意見いただいたと思いますので、改善をしていただければと思います。実績報告については、本日の会議以外でも質問等は受け付けてくださるのでしょうか。
伊藤主査	はい。ご欠席の委員の方もいらっしゃいますので、こちらアンケートと同じようにご意見いただければと思います。
和田会長	お気づきの点等あれば事務局までよろしく願いいたします。

	<p>予定されていた事項については、以上を持ちまして終了いたしました。 ご意見等他になければ以上で終了とさせていただきます。</p>
--	--